

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：34310

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2022

課題番号：19K23236

研究課題名（和文）地域文化の再構築を担う創造の場：教育研究機関の集積と連携による人材開発と知識共有

研究課題名（英文）Creative Milieu Responsible for the Reconstruction of Regional Culture: Human Resource Development and Knowledge Sharing through Accumulation and Collaboration of Education and Research Institutions

研究代表者

前田 厚子 (Maeda, Atsuko)

同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員

研究者番号：50849049

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：1980年代以降より整備された「グラス・アート・ヒルズ富山」と、伝統的な「セラミックバレー美濃」に立地する専門技術研究所（専門校）及び工芸家（教職員、学生、卒業生）が、公立の工房・ギャラリー・美術館との組織間と個々の協働により、従来とは異なる価値を創出する創造の場の形成過程を顕在化した。また、金沢市、石川県、京都市、京都府の相当例について、所属学会、韓国晋州市国際会議、日欧国際学会、学術誌論文（査読付）や招待論文（英文）で報告した。さらに、4都市3地域が設置した7専門校在籍者へアンケート調査を実施し、属性における特性を地域や世代で比較し、育成システムの現況と課題を学会で報告し論文を投稿した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

文化経済学と創造経済の文脈より、地域の象徴となる芸術文化の革新と継承を担う主要なアクターである専門技術者を育成するシステムやインフラの整備に関する研究は、研究者の論文を除くとあまりみられず、未発達な領域である。そのため本研究は、概要で前述した関係機関や工芸家へのヒアリング調査と専門校在籍者へのアンケート調査より、今日の社会的課題を解決する足掛かりとして、最新の情報を基盤に分析した貴重な資料である。また、本研究成果を国内外主催の学会や学術論文等にて広範に報告できたことは、学術的意義に限定されず、他地域の育成機関や関連産業の関係者にも有益な研究成果であり、社会的意義も大きいと考える。

研究成果の概要（英文）：This study manifested the building process of creative milieu which contribute to the regional sustainability in “Glass Art Hills Toyama, Japan” developed from the 1980s, and “Ceramic Valley Mino, Japan” developed from the 15th Century, focusing on an international talent development, necessary infrastructure, and systems. The most important factors were first the specialized craft-art vocational schools with systematization of various international exchanges, local settlement supports, and regular networks with museums, studios, stakeholders, and local residents, and second their faculty, graduates, and students who have developed individual relationship into organizational and regional networks through their various art activities.

For details, please see academic papers in English or Japanese as informed.

研究分野：文化経済学

キーワード：創造の場 人材育成 知識共有 工芸 専門教育研究機関 支援工房 美術館 国際化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

少子高齢化や経済不況の長期化により、地域を象徴する芸術文化の革新と継承を担える専門技術者の持続的な確保は、地域従来の人材、インフラ、システムのみでは大変困難といえよう。一方、高度な技術表現力と有機素材で作られる手工芸品と作り手である工芸作家は、国内外の美術館、ギャラリー、芸術祭、見本市、観光事業にオンライン出品も含めて幅広く関わることにより、世界の専門家やコレクターから高評価されてきた。また、作家個々のキャリア発達に限定されず、教育研究機関(大学、専門校、美術館、工房)とステークホルダーとの協同プログラムは、一般市民や後進者を対象とする社会教育普及、芸術文化事業の交流増による波及効果の創出に寄与している(前田, 2018)。ところが、全国規模で活躍する40歳代以下の工芸作家を育成する環境は(前田, 2017)、家庭や窯元ではなく、芸術系大学(芸大)を筆頭とする大学機関がスタートとなり、卒業してから自立するまでの約10年間は、高度な専門技術の習得と工房の確保を安価で継続できる公営の専門技術研究所(専門校)や共同工房(スタジオ)に所属する傾向である。また自立後は、地域界隈のギャラリーやアートイベント、美術館などに出席して経験知を積みながら、国内大都市圏や海外にも活動圏を拡張させるキャリア発達が、陶芸作家トップ層の育成環境においては一般的である。

このような調査結果に基づき、工芸品の生産と消費、そして人材育成が継続発展してきた先進的な京都市と金沢市において、工芸家を育成する芸大と専門校を主対象に、関係性の強い美術館や地域社会とで構築される創造の場について、博士論文(2019)「地域の伝統を再構築する創造の場—教育研究機関のネットワークを媒体とする人材開発と知識移転—」を執筆した。

ところがその課題として、京都市と金沢市における2事例の比較では、一般論としての結論や論証が不十分ではないという懸念があった。そのため、ガラス造形の専門校、工房、美術館が僅か30年余りで世界の専門家に高評価されるガラスのまち富山市と、国内最大の美濃焼産地界隈の国際拠点として、焼き物の専門校、工房、美術館、文化施設が集積する多治見市の相当事例に拡張して、比較調査することとした。

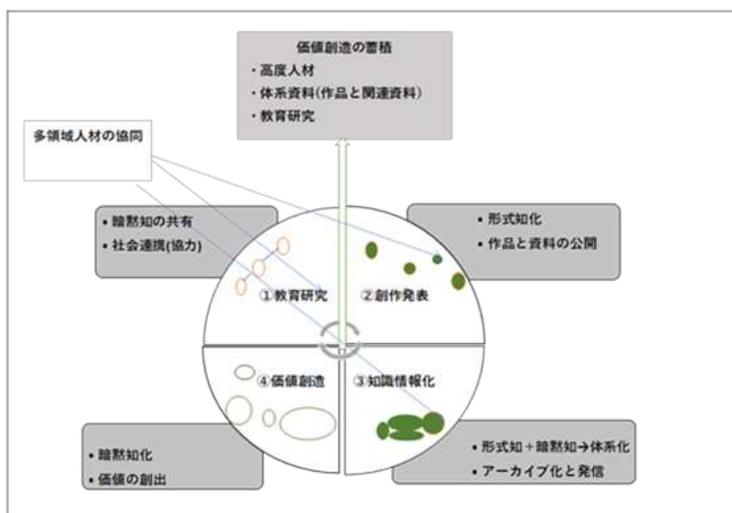
2. 研究の目的

地域を象徴する芸術文化が特定の工芸分野であり、関連産業を基盤とする持続的発展を目指す都市や地域には、芸大や専門校および関係する工芸家が主たるアクターとなり、人材育成、研究開発、社会教育普及を目的とする公立の工房や専門美術館が一定地区内に立地する。それらの革新的な創造の場が構築されていく過程と価値を、京都と金沢の2例から両近隣の岐阜と富山の2例を拡充して分析精度を高めることにより、解明する。調査項目は、そのような創造の場を構築する主要素(教育研究機関、工芸家)の属性、実用的かつ国際的な人材育成を促進させる社会連携システム、従来の工芸品産地(産業クラスター)や地域社会への影響である。そして、スロスビー(2001)が唱えた文化的、社会的、経済的な価値をバランスよく創出して地域社会の持続的発展に寄与できるよう、教育研究機関の社会連携を基盤とする創造の場が最適化される主要素(アクター)と必要条件(システム)を解明することが、研究者の最終目標である。

3. 研究の方法

(1) 野中ら(1996)の企業内知識創造モデル(SECIモデル)の基礎概念(図1)を、多様な形式知(作品や関連資料)と暗黙知(創意やノウハウ)を組織外にスピルオーバーする芸大と前述した専門校に応用する。まず、図1の教育研究機関(本研究では専門校若しくは芸大)における価値創造の場は、帰属的な個人や組織のネットワークを活用する①教育研究の場(社会連携の場)における知識(暗黙知)の共有、②創作発表の場における作品と関連資料(形式知)の公開、③知識情報化の場における作品と関連資料の体系化と情報発信、④価値創造の場における創出価値の蓄積、と4過程に区分する。次に、①～④の各場を構成する主要素(アクター)、組織内外の連携システム、創造の場から創出される価値を検証する。また本調査の情報基盤には、文献調査(富山市と多治見市、専門校、美術館の公開資料); フィールドワーク(関係機関の構内や公開行事の見学; 幹部、教員、在籍生へのヒアリング調査; 作家である教員、講師、卒業生と候補者である学生(研修生)が関与する地域連携の芸術祭、美術館展、ギャラリー展の見学); 関係作家を30～40歳代と50～60歳代の2世代に区分した世代間の経歴調査(2020年～); 専門校在籍生への属性アンケート調査(2021年度)が該当する。

図 1 教育研究機関の組織内における価値創造の場



(出所)組織内知識創造モデル(野中・竹内, 1996)の方法論を参考に教育研究機関の社会連携を構成する価値創造の場(前田, 2020)

(2)これ迄に研究してきた金沢市と京都市の芸大、専門校および工芸家が構築する創造の場について、芸大が市内に所在しない相当事例と比較できるよう情報を整理して、国際シンポジウムや日英語による雑誌論文や書籍で報告する(前田; 2020, 2021a, 2021b,)。

(3)最終年度である 2022 年度においては、本研究の集大成として、富山市、多治見市の調査機関である市営専門校に、京都市、京都府、石川県、金沢市、岐阜県が設置した専門校の在籍生にアンケート調査を実施する。コロナ禍後と少子化の影響を踏まえた次世代の工芸家の属性を、地域性や専門校の特色を踏まえて比較分析し、育成環境の現況把握と課題を提起する。

4. 研究成果

(1)富山市と多治見市が設置した特定工芸分野の専門校が、社会連携によって文化的、経済的、社会的な価値(Throsby, 2001)を創出して地域の持続的発展に寄与する価値創造の場を構築する過程において、必要なアクター、システム、成果(創出価値)を解明した。

第一に、創造的な専門家育成、芸術文化、関連産業が同時に振興して地域の国際発展に寄与する専門校、専門美術館、工房および移住者で志が高く才能ある若者と、国内外で活躍する作家で海外関係機関とも交流のある常勤指導者が、主たるアクターである。また共通のシステムは、次のとおりである。第一に、公立の工房や専門美術館と関係者(教職員、卒業生、在籍生)が、継続的に補完・相乗効果を生み出す社会連携システム(国際公募展、国際交流プログラム、卒業制作の公開展、公開ワークショップ)、第二に、専門校の卒業後も工房提供、技能研磨、補助金、雇用といった重層的な自立支援システム、第三に、主なアクターが芸大ではなくて公立専門校の場合は以下の点が顕著である。地域を拠点として国際的、革新的に活動する指導者と、家系関係者や経験者ではないが志と才能ある若者の双方が、既存の職域概念(作家、デザイナー、職人)に限定されずに経験に応じて制作発表できる専門の美術館、工房、地域連携イベントの国際性と連携効果を発揮するシステムである。またそこから創出される価値は、個人的、組織的、従来の産業クラスター(工芸品産地)や地域住民にも既存とは異なる文化的・経済的・社会的価値を保有する芸術文化事業や作品の創出と、それらの創造活動で次世代へ蓄積される知識と活力であると所属学会及び雑誌論文にて報告した(前田, 2022a)。

(2)金沢市や京都市における芸術系大学が基盤となる創造の場

本調査対象は、金沢市と京都市に立地する金沢美術工芸大学(以下「金美」)、京都市立芸術大学(以下「京芸」)と関係する陶芸作家(卒業生・教員)とその候補生(学生)である。彼らが地域の美術館や専門校に生涯的に関与して、人材育成、制作発表、教育研究普及の事業に関わることにより、既存産地(産業クラスター)や地域社会に与える影響を、大学ではなく専門校が主対象となる本研究との共通点と相違点に着眼した。さらに日韓の学会と論文で、日英語によって広範に報告した(前田;2020, 2021a, 2021b)。

(3)富山市、多治見市、金沢市、京都市、岐阜県、石川県、京都府に所在する公立専門校生へのアンケート調査

本調査は、少子化やコロナ禍の影響もあり、次世代工芸家を取り巻く環境が過渡期とみなして、特定の工芸分野で国内先駆例といえる京都府、京都市、岐阜県、多治見市、石川県、金沢市、富山市が設置した専門校の在籍生にアンケート調査(有効回答数 161/配布数 183 名)を 2021 年 10 月から 2022 年 3 月まで順次実施した(付録 1)。そして、世代、性別、研修コース、出身地、最終学歴、家庭環境、職歴、海外滞在歴、希望進路や、カリキュラム/公的支援制度/地域定着/

公立の美術館/(自立支援)工房/公募展への関心度といった人的属性における共通点を顕在化させた。その調査結果と一世代前の卒業生らに関する経歴調査(付録2)および調査機関からの入手資料を情報基盤とし、育成環境の人的及び社会的な属性について時系列分析を試みた。一律の統計資料ではなく国内複数の教育現場より直接入手した最新データの分析による早急な情報開示が本研究の意義であり、少子化やコロナ禍後を見据えた次世代工芸家の育成課題を提起することが目的であった。他方、調査地域を拠点に国際的に活躍する一世代先輩にあたる現在30歳~40歳代の卒業生らに対する経歴調査¹⁾(付録2)は、工芸家本人の公式サイト、帰属団体、展覧会主催者が公開するポートフォリオや本人へのヒアリング調査から抽出した情報を基盤とした(前田;2017, 2021a, 2022a)。このように、4都市3地域に所在する専門校の世代間(10年間)における考察においては、人的属性のほか専門分野自体の特色、自治体の規模や政策、風土といった社会的属性を考慮して以下の結論を導いた。

後継者の確保と継続的な革新を生み出す知識を必要とする既存環境には、志とチャレンジ精神が大きい移住者、女性、外国人、中高年が新たな構成要素となり、コロナ禍を挟んだ今日以降の育成環境には、新たな属性であるジェンダー、国籍、年齢を考慮した美術(図2)と産業(図3)の2種に区分される育成環境の再構築が緊要である(Piore & Sabel, 1984)。他方、石川県校在籍生の志望理由にあるように、県内における美術館やアートイベントを媒体とする地域活性化と工芸家(個人作家、窯元・事業所従事者)である卒業生らの活躍に刺激されて、家系関係者や経験者でない地元出身者が地場産業界に進路志望する若者の育成とそのシステムづくりも緊要である。

図2 次世代の工芸作家を目指す属性傾向



出所: 前田, 2022b

図3 今日以降の工芸産業を担う属性傾向



出所: 前田, 2022b

最後に、コロナ禍が収束してインバウンドの観光産業も再生され、教育や芸術文化に関わる国際交流事業が以前同様に開催される際には、今アンケート調査の結果がコロナ禍限定の一過性なデータも含まれた可能性もあり、見直す必要が課題となった。なお本調査の分析結果は2022年度の文化経済学会<日本>の年次研究大会で発表して(前田, 2022b)論文を投稿し、別途、詳細な報告書を作成する予定である(翌年度に22K13023で進行中)。

付録1 人材育成に関するアンケート調査(出所: 前田, 2022b)

(配布先によって固有名称が異なり質問内容が特色を考慮して多少異なる.)

基本情報について

Q1 世代(10代, 20代, 30代, 40代~)

Q2 性別

Q3 所属コース

Q4 出身地(市内, 府県内, 隣接府県, その他)

Q5 最終学歴(高校, 専門学校, 芸術系大学, 一般大学美術系学部, 一般大学美術系以外学部, 芸術系大学大学院, 一般大学大学院)

Q6 専門工芸分野に関する家庭環境

Q7 他分野のアートに関する家庭環境

Q8 工芸関係の職歴

Q9 海外在住歴(国名と滞在期間)

現在の教育環境について (Q10 と Q10' はどちらか質問)

Q10 応募理由と現時点における満足度や要望

Q10' 住居の賃借有無とその感想

Q11 支援制度の活用有無と関心度(海外研修, 貸工房や工房開設補助金ほか)

Q12 海外教員や海外研究生に関する満足度や期待度, その理由

Q13 海外新進作家のアーティストインレジデンス(AIR)に関する満足度や期待度

Q14 先輩作家の日常的な指導や助言に関する満足度や要望

卒業(修了)後について

Q15 所属コースの修了後の進路(複数回答は3つまで可)

1. 進学(2. 進級, 3. 府県内の専門機関, 4. 他県の工房研修生), 5. 府県内工房職員,

6. 他府県工房職員, 7. 作家, 8. 企業就労デザイナー, 9. 起業家デザイナー, 10. 教育機関助手・講師, 11. 海外機関助手・講師, 12. 家業就労, 13. その他
 Q16 卒業後の定住希望の有無とその理由
 Q17 地域に所在する工房やギャラリーとの関わり
 Q18 地域に所在する美術館(芸術祭)との関わり
 Q19 展覧会, 公募展やイベントへの出展歴や将来出展したい展覧会
 Q20 地域に定住して制作活動をするうえで, 気が付いた点

付録2 工芸作家の経歴調査のテンプレート (出所: 前田, 2022b)

番号	作家名	性別	年齢	専門	学歴	専門訓練	職業	出身	工房場所	兼務	助成受給歴	師匠	所属団体	公募展受賞など	地域展示・販売会・顕彰	主な団体展	主な個展	ワークショップ・レクチャー	主なパブリックコレクション

参考文献:

Piore, M. J. and C. F. Sabel (1984), *The Second Industrial Divide: Possibilities for Prosperity*, Basic Books (山之内靖・永易浩一・菅山あつみ訳 (2016) 『第二の産業分水嶺』ちくま学芸文庫).

Throsby, D. (2001) *Economics and Culture*, Cambridge University Press.

佐々木雅幸 (2012) 『創造都市への挑戦—産業と文化の息づく街へ』岩波現代文庫.

滋野浩毅 (2009) 「伝統産業が保有する文化的価値に関する考察—京都市域の伝統産業産地における取組事例をもとに」『文化経済学』125-135 頁.

野中幾次郎・竹内弘高 (1996) 『知識創造企業』東洋経済新報社.

前田厚子 (2017) 「教育研究機関の多元的な創造の「場」と陶芸作家のキャリアパス—京都や石川の伝統を再創造する知識管理と人材開発」『同志社大学経済学論叢』49-90 頁.

-, (2018) 「教育研究機関のネットワークにおける創造の場—地域の伝統を再創造する人材開発と知識移転」『文化経済学』38-54 頁.

-, (2019) 「地域の伝統を再構築する創造の場—教育研究機関のネットワークを媒体とする人材開発と知識移転—」『同志社大学博士論文』.

-, (2020) 「革新と継承を担う創造環境の形成過程—京都や金沢に立地する芸術系大学の形成過程」『文化経済学』18-33 頁.

-, (2021a) 『地域の伝統を再構築する創造の場—教育研究機関のネットワークを媒体とする人材開発と知識移転』水曜社.

-, (2021b) “Formation Process of the Creative Environment: Responsible for Innovation and Succession: Art University and craft Artists in Kanazawa, Japan”, *International Journal of Crafts and Folk Arts*, p. p. 27-50.

-, (2022a) 「持続可能な創造環境への政策と担い手確保—ガラス・アート・ヒルズ富山とセラミックバレー美濃—」『文化経済学』43-56 頁.

-, (2022b) 「少子化とコロナ後を見据えた工芸人材の育成環境—専門校生へのアンケート調査より」文化経済学会<日本>研究大会フルペーパー.

¹全国規模で活躍する30歳~40歳代で且つ,富山県界隈を活動拠点とするガラス造形作家19名と岐阜県界隈を拠点とする陶芸作家19名の経歴調査は2020年度以降調査中. また京都府と石川県を拠点とする同等の陶芸作家25名は2014年~2018年度に調査(前田, 2021a).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 前田厚子	4. 巻 19号1巻
2. 論文標題 持続可能な創造環境への政策と担い手確保ーグラス・アート・ヒルズ富山とセラミックパレー美濃ー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文化経済学	6. 最初と最後の頁 43-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11195/jace.19.1_43	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Atsuko Maeda	4. 巻 Volume 2
2. 論文標題 Formation Process of the Creative Environment Responsible for Innovation and Succession: Art University and Craft Artists in Kanazawa, Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Crafts and Folk Arts	6. 最初と最後の頁 27-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 前田厚子	4. 巻 17巻第2号
2. 論文標題 革新と継承を担う創造環境の形成過程-京都や金沢に立地する芸術系大学と工芸作家	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文化経済学	6. 最初と最後の頁 18-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11195/jace.17.2_18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 2件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Atsuko Maeda/前田厚子
2. 発表標題 Formation Process of the Creative Environment Responsible for Innovation and Succession: Art University and Craft Artists in Kanazawa, Japan
3. 学会等名 The 6th Jinju UNESCO Creative Cities International Forum（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前田厚子
2. 発表標題 持続可能な創造環境と人材育成ーグラス・アート・ヒルズ富山とセラミックパレー美濃
3. 学会等名 文化経済学会 < 日本 > 研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前田厚子
2. 発表標題 革新と継承を担う創造の場の形成過程ー京都や金沢に立地する教育研究機関と工芸作家の相互作用
3. 学会等名 文化経済学会 < 日本 > 研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田厚子
2. 発表標題 少子化とコロナ後を見据えた工芸人材の育成環境：専門校生へのアンケート調査より
3. 学会等名 文化経済学会 < 日本 > 研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Atsuko Maeda/ 前田厚子
2. 発表標題 Urban Policy and Securing Talent toward Realizing an International Creative Environment: Glass City Toyama, Japan
3. 学会等名 Rethinking Creative Cluster (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Atsuko Maeda/前田厚子
2. 発表標題 Urban Policy and Securing Talent toward Realizing an International Creative Environment: Glass City Toyama, Japan
3. 学会等名 Florence University Annual Special Lecture for a Week (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 前田厚子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水曜社	5. 総ページ数 150
3. 書名 地域の伝統を再構築する創造の場－教育研究機関のネットワークを媒体とする人材開発と知識移転	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------